

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200198		
法人名	株式会社 ケアフロンティア		
事業所名	グループホーム さんぼ道		
所在地	栃木県足利市山下町2325-3		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さんぼ道に関わるすべての方が
 ころ豊かに・・・楽しく・・・快適・・・を基本理念に毎月1回以上のお食事会やご家族様と共にお花見、
 地域の方も参加して頂いた納涼祭など社会との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市西部山間部の住宅地が広がる閑静で恵まれた環境の中に位置している。「ころ豊かに・楽しく・快適」という基本理念を全職員で共有し、明るく開放的で家庭的な雰囲気を目指して、自治会の夏祭りなど地域との交流を進めながら、利用者一人ひとりが地域の中で安心して生活できるように日常生活の支援やサービスを積極的に進めている姿勢が見られる。また、近辺の環境を活かしながら、頻りに近隣を散歩し地域住民との親交を深めるなど、利用者の尊厳を念頭に置き、利用者一人ひとりの心身の状態を的確に把握しながら各人に合った自立支援を行うとともに、家族との情報交換を密にし理解と協力を得ながらサービスの向上に努めている。さらに、隣接の小規模多機能施設と合同のレクリエーションを行うなど積極的に交流しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、「こころ豊かに」・「楽しく」・「快適」という独自の基本理念を掲げ、職員は理念を共有し理念に基づいた介護を心がけている。	理念を玄関に掲示し周知に努めるとともに、新任職員には理念の意義や具体的なケアの中で意識して実践に取り組むことを説明し、全職員が毎日の介護の中で理念の再確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、夏まつりの協力や、御神輿の休憩場所としての提供の提案など、交流している。	自治会の夏祭りなどの行事に参加するとともに、ホームの納涼会に地域の方々を招待したり、日頃から散歩時等に挨拶し、顔なじみになるなど、地域との連携を深めている。また、自治会の回覧板や公民館を活用して情報を発信し、ホームの周知に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や家族から相談を受けた場合。また、電話にて問い合わせを受けた場合、助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、参加者が自治会長、民生委員、市担当職員、利用者及び利用者家族となっている、内容は事業者側から運営報告が主であるが、家族や自治会からの、率直な意見を出してもらえる場になっている。	運営推進会議は自治会長、民生委員、市担当職員、利用者及び家族を構成員とし、消防署職員にも年1回は参加して頂いている。また、会議ではホームの活動報告・運営などの意見交換を行う他、地域の情報などを提供して貰っている。	会議には固定メンバーだけでなく議題に応じて消防署職員も参加しているが、引き続き消防署や警察署職員などの参加を呼びかけて助言を得るとともに、より多くの家族が参加できる機会を設けられるよう夜間等の開催の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議に事業所の運営上の課題や制度上の相談を行っている他、他事業所の状況やケアの検討を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議における市担当職員との相互情報交換などによる連携や日頃からの電話連絡、相談などにより、市との協力関係の構築に努めており、関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に身体拘束排除理念および方針を掲げており、不適切ケアのアンケートの実施し勉強会を通じて職員の理解を深めている、日中は玄関に鍵はかけておらず、夜間は保安のため施錠している。	身体拘束排除理念を掲示し、全職員が具体的な取組方針を共有している。さらに、利用者への声かけや見守りを徹底し、職員間で言葉かけの具体例を話し合うなど注意を促し、身体的拘束を排除した支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員はご利用者の表情、身体状況に注意しながら、防止に努めている。また、虐待が疑われた場合は、情報を共有し様子観察を行っている。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な事例なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、理解や納得を得て不安や疑問がないか、確認しご契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や事業所内に苦情相談窓口を記載し利用者、家族に知らせ運営に反映させている。また面会時に来た際に意見・要望を聴いている。	家族等の意見・要望を面会時などで把握するように努めており、歯の治療や散歩等の要望が出され対応している。また、利用者の様子を記載した便りを家族に送付するなどの工夫もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議において、意見や提案を聴いている。また、その他でも意見など随時聴き反映させている。	毎月の職員会議で運営に関する問題点や改善点などについて意見交換を行うほか、企画書や連絡ノートによる職員の提案や意見を聞く機会を設け、利用者のサービス向上への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況、実績を把握しており、職員個々の努力や実績を評価し賞与等で反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を始め外部の研修会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設である、市内3か所のグループホームへ見学に行ったり、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の訪問などにより、ご本人の話を聞く機会を作り、不安等を受け止め、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所又は訪問にて、ご家族の意向や困っていることを聞き、共感し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の要望を把握し必要なサービスを見極め、安心して利用して頂けるよう対応している。また、必要に応じて他事業所の紹介などもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事、施設外の清掃、家事など本人が長年行ってきた事を職員と共にしたり、会話を通じご入居者様から学んだりと関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人への介護に対する思いを理解、共感し信頼関係構築に努め、家族・職員が情報交換を行い、共に本人を支えていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との連絡を密にするよう心がけている、これまでの生活歴や趣味等を把握し、馴染みの方がいつでも来所できるようにしている。	利用者本人や家族からこれまでの地域社会との関わり状況や趣味等の情報把握に努めており、できるだけ継続的な関係が維持できるよう支援している。また、家族・知人等の面会も多く夜間も随時に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の個性や相性などを把握し、お互い支え合えるよう支援をしている、各入居者様に職員の担当者を付け、孤立することのないよう支援している。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、こうしてお会いできたのも何かのご縁、いつでも相談してくださいとお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中から、本人の言動や表情を通し、思いや意向の把握に努めている。	思いの表出が困難な利用者が多いので、以前の仕事や趣味、写真、日ごろの生活状況や行動、表情などからできる限り把握するように努めている。さらに、入浴時に話しかけるとともに家族からの情報なども活用しながら本人の意向等を推し測っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時にこれまでの生活歴を把握するよう努めている、個人ファイルを使用し、職員全員が共有できるようにしてある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の生活リズムを把握することに努めている、その結果、自ら出来る事は自分で行ってもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の要望を確認し、職員会議などで職員の意見を取り入れ、介護計画作成している、本人の状況に変化が見られた場合は随時見直しを行っている。	本人・家族に介護計画の複数案を提示し意見を聴きながら本人に適した介護計画を作成している。また、担当職員を定め本人、家族の要望や状況の変化等を適切に把握し、モニタリングやアセスメントを行いながら本人の状態等に応じて随時に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や経過記録をを活用し会議にてカンファレンスを行い情報を共有して実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状におけるニーズの把握に努め、その時折で柔軟な対応ができるよう努めている。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員と協力しながら、必要に応じて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前から診察を受けている、かかりつけ医の継続を支援している。また、入居後にホームの協力医にかかりつけ医を変更する入居者も多い、ご家族とは受診結果を報告し健康状態の共有につとめている。	かかりつけ医での受診を支援しているが、ホームの協力医に変更する利用者が多い。毎月一度の協力医の往診や必要に応じた歯科医の往診、ホームの看護師により適切な医療受診の支援に努めている。また、家族同行の受診が基本となっているが、緊急または不可能な時には職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し健康管理や状態変化に応じた対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、ご家族と連絡を取ったり、洗濯物の回収時、退院時期や状態について医療機関と話し合い、早期退院できるよう連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、ご家族と話し合い事業所としてできること、できないことを話し合い、かかりつけ医と連携、助言をいただき対応している。	入居時に重度化や終末期におけるホームでの可能な対応を十分に説明している。その上で、終末期には、本人や家族の希望等を把握し適切な病院を紹介するなど家族やかかりつけ医と連絡を取りながら支援している。	急変対応マニュアルや緊急時連絡網を策定しているが、重度化に備え引き続き医師との連携を進めながら中期的な協力体制の構築検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を受講し、勉強会・マニュアル等により周知を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、立ち合いの総合避難訓練の実施や運営推進会議時、万が一の時の協力を自治会に要請している。	消防署立会いの総合避難訓練と夜間想定避難訓練を実施するなど、職員と利用者が一体となって取り組んでいる。また、防災マニュアルや緊急連絡網を整備するとともに、自治会に災害時の協力を要請している。	夜間災害時は職員だけで対応することが困難な場合が想定されるので、引き続き地域との具体的な支援協力体制の構築と災害に備えた食料や水の備蓄について法人全体での検討を期待したい。

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご入居者に対し敬う気持ちを持ち、不適切な言動がないよう注意して言葉掛けや対応をしている。	排泄等で支援が必要なときは本人が恥ずかしい思いやプライバシーを損ねないようにタイミングに配慮して小声で声かけをするように努めている。また、自分の祖父や祖母のつもりで、常に敬意と尊厳を持って対応するよう日頃からの意識高揚に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言える雰囲気心がけ、職員は、本人の言動から気持ちを理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の考え方ではなく、その日の状態に合わせて、その人らしい生活ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に合わせて、福祉理容車を利用している、身の回りのものを購入する時は職員が付き添い、自分の好きな物を購入してもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者の嗜好を把握し提供、食器の片づけ等、お手伝いをさせていただいている、職員は共に食事をして食事の時間を楽しめるように努めている。	職員が利用者の意向を配慮しながらメニューを決め、利用者と一緒に食材の買い物をしたり、見える場所で調理するなど、利用者と職員が同じテーブルで楽しみながら食している。また、時には外食や弁当を注文するなど食事を楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量のチェックを行い記録している、食事・水分摂取量の低下時はその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている、義歯利用者は、夜間に義歯洗浄を行っている。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを日々の行動から把握し、自尊心に配慮しながら声かけや見守りを行い自立に向けた支援に努めている。また、ポータブルトイレを活用しおむつを使用せずにトイレで排泄できるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、体操を毎日行っている。また、排泄記録をつけて便秘時は主治医と連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入居者の要望や状態により変更している、週に1回、入浴剤を使用している。	本人の入浴希望を確認し、週3回程度個々に入浴を楽しむことができるよう羞恥心等に配慮しながら支援している。また、ゆず湯や週に一回入浴剤を使用するなど入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合った対応をしている。昼夜逆転することがないよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による内服薬の確認、薬の目的や副作用、用法や用量については、内服薬ファイルを活用し医師の指示通り服薬できるよう支援している。また、必要に応じて、服用後の状態を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で掃除や洗濯など手伝える事は手伝ってもらい、必要とされていることを知ってもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行きたい時はできる限り、希望通りに行っている、月に一度は全員で外出に出掛けている。	車椅子使用の利用者が多いが、毎月、戸外での食事会や市内外の公園等への外出を企画し、近隣の環境を活かした散歩も頻繁に行うなど、利用者の気分転換を図っている。また、利用者の希望を確認しながら家族との外出支援にも取り組んでいる。	

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、個々の希望、能力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、家族に電話をするなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関近くには、外出時の写真を飾り、季節に応じた飾り付けなどをしている。	玄関やホールには外出時の写真の掲示や季節に応じた装飾がなされ、床には無垢フローリングが使われている。落ち着いた雰囲気の中で利用者がゆったりとくつろげるよう工夫を凝らしている。また、その他の共用空間も居心地良く過ごせるよう環境作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、畳スペースを利用し、個人個人が思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのものをお持ちいただいている。	常備されている寝具やタンスのほか、本人や家族と相談しながら利用者が違和感を感じないよう家族の写真や生活用品などの馴染みの物品を居室等に配置し、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など常に利用する場所は分かりやすく大きく表示し、支援が必要なことは見極め、個々の能力をいかせるようにしている。		